

6.2 教育・研究指導のあり方

進捗状況報告

【6.2.1 カリキュラムにおける高・大接続】

経済学入門教育は、「経済と経済学の基礎A・B」が2008年度より新しい内容で提供されているが、それに合わせて「経済と経済学の基礎C」を2009年度から新しい内容で提供できるよう改革を行い、同科目（A・B・C）がより体系的な形で教授できるようにした。

【6.2.2 履修指導】

入学時の履修指導やキャリアデザイン指導などについては、毎年、改良を加えながら実施されている。コース選択が履修上重要な位置づけであることには変わりなく、選択したコースに沿ってより体系的に学べるよう研究演習とコース制との関係強化について検討が行われている。キャリアデザイン教育は、教務課（キャリアデザインプログラム）やキャリアセンターによる授業、講演会、制度等に関して周知を図り、利用を奨励している。また、それらを補完する経済学部独自のキャリア指導の実施についてはひきつづき検討中である。

【6.2.3 社会人学生、外国人留学生等への教育上の配慮】

留学生用クラス設定の調整が検討課題であったが、特に必要性が高い英語に関しては1993年以来、留学生を対象にした英語科目「基礎英語」を提供し、留学生の英語力向上に力を入れている。その他は特に行われていない。また、入試選考段階で英語を課すかどうかも検討課題として挙げられていたが、日本語の問題文の中で英語能力を問う問題を入れることで部分的に英語を導入することが決定された。なお、社会人についての学部内での指導は一般学生と同様で、とくに特別な指導をしていない。

学内第三者評価

経済学入門の教育である「経済と経済学の基礎A・B・C」の改善については、他の評価項目で繰り返し記述されているので、ここでは言及しない。入学時の履修指導やキャリアデザイン指導の充実という試みは、コース制と結びつける点でユニークなものである。東アジアからの留学生が多いことから、検討課題とされてきた入試選考段階で英語を課すことになったことについても、今後の展開に期待する。